

第3次基本構想案

1 策定の趣旨

西東京市第3次基本構想は、新市誕生からのまちづくりを踏まえつつ、次の10年の目指すべき将来像を描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を示すものです。

本市では平成29年に人口が20万人を超え、人口増加を続けていましたが、全国的な傾向に見られるように、今後緩やかに人口減少に転じることが予測されています。また、少子高齢化による人口構造の変化は着実に進行しており、将来的には65歳以上の高齢者の割合が3割を超える見込みです。

一方で、近年の自然災害の頻発・激甚化、地球規模の環境問題の深刻化や、デジタル社会の進展、テレワーク等による働き方の変化など、多様化する社会経済情勢等に的確に対応することが必要です。また、高齢化等に伴う社会保障費の増加や公共施設等の社会資本の老朽化への対応等、今後の行政需要、財政負担の増大は避けられない状況が予測されます。

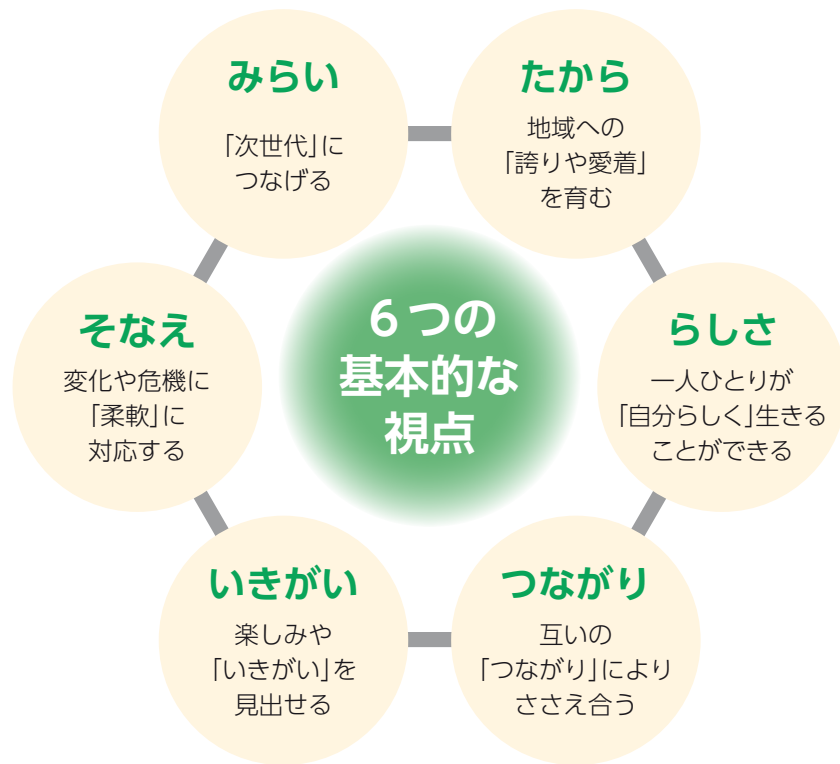
そうした状況においても、本市が将来にわたって発展し、持続可能で自立した自治体となるためには、だれ一人取り残さない社会の実現を目指した国際目標であるSDGs※(持続可能な開発目標)の理念を念頭に置きつつ、一人ひとりが「このまちに住んでよかった」「このまちに住み続けたい」と思えるまちを創り、次世代に引き継いでいくことが必要です。

西東京市第3次基本構想の策定にあたっては、市民意識調査や西東京市のミライを語るシンポジウム、まちづくりワークショップなどを通じて、西東京市の将来を担う子ども・若者をはじめとした、多くの市民が関わり、一緒に作り上げてきました。

そして、市民とともに整理したこれからのまちづくりに求められる6つの基本的な視点を礎として、まちづくりを総合的かつ計画的に進めるため、基本構想を

行政運営における市の長期的なビジョンとして位置づけ、「西東京市第3次基本構想」を策定します。

※SDGs: 2030年までにより良い世界を目指す国際目標(17の目標と169のターゲットで構成)



2 計画のフレーム

(1) 計画期間と目標年次

基本構想は、令和6(2024)年度を初年度とし、令和15(2033)年度を目標年次とします。

(2) 想定人口

令和15(2033)年度における想定人口は、おおむね20万4,000人とします。

(3) 土地利用

本市は、武蔵野台地のほぼ中央にあり、東京都心の西北に位置し、東西4.8km南北5.6kmにわたり、面積は15.75km²で、地形はほぼ平坦な地域です。

市内には、西武池袋線の2駅(保谷、ひばりヶ丘)と西武新宿線の3駅(東伏見、西武柳沢、田無)があり、区部に隣接するため都心にも近く、都市部周辺における良好な住宅地が形成されています。

土地利用にあたっては、公園・緑地のほか、農地等の保全・活用に取り組み、みどりと調和した良好な住環境の形成を図ります。

また、生活の拠点となる駅周辺などでは、地域の特性にあわせた土地利用や施設の誘導を図ります。



西東京いこいの森公園



いこいな

3 基本理念(わたしたちの望み)

ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京

第1次及び第2次基本構想では、「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」を基本理念としてまちづくりを進めてきました。基本理念に込めた、お互いを思いやり尊重できる「やさしさ」、人と人との「ふれあい」は、新市として誕生した西東京市に息づき、これまで育んできたわたしたちのまちづくりへの想いです。

これからもこのまちに暮らすわたしたちは、これまで大切にしてきた「やさしさ」や「ふれあい」を継承しつつ、身近に残る豊かな自然環境や歴史や文化芸術、安らぎを感じられる落ち着いた住環境を守り、だれもが住み続けたいと思える西東京市であることを願います。

一方、わたしたちの西東京市を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変わりつつあります。将来にわたり市民が満足できる西東京市を創り上げるために、市民、市民活動団体、事業者や行政等のさまざまな主体がともに課題に向き合い、変化や危機に対して柔軟に対応していくことが求められています。

そのため、わたしたち一人ひとりが、西東京市の未来を「自分ごと」として捉え、主体的にまちづくりに関わり、責任を持って次世代へとつないでいく必要があると考えています。

このような想いから、第3次基本構想においては、「ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京」をわたしたちの望みとして、基本理念に掲げます。

●ともにみらいにつなぐ

「ともに」

まちづくりに関わるさまざまな主体が、手を携えて協力している様子を表しています。

個の思いや力だけでなく、それぞれの立場や経験を活かし、協働することで、より多様化・複雑化する課題に対応していくことができます。

「みらいにつなぐ」

これまで守り育んできた西東京市の良さを次世代に残していくことに加えて、さまざまな主体による取組が次世代にも引き継がれるよう、未来を担う子どもたちにまちづくりのバトンを渡していくことを表しています。

●やさしさといこいの西東京

「やさしさ」

思いやりや助け合いの気持ちなど人のやさしさや温かさだけでなく、一人ひとりが認められ大事にされる社会、地球環境への配慮ある行動、だれ一人取り残さない持続可能な社会など、深く多様な意味が込められています。

「いこい」

市の中心部に位置する西東京いこいの森公園やマスコットキャラクター「いこいな」などに象徴されるように、わたしたちが大切に育んできた言葉です。都心に近いながらも、身近にみどりが感じられる環境や落ち着いた住環境の中で、心や体が休まり、人々の交流が生まれるいこいの場をこれからも守り育てていくことを表しています。